

上川管内 校長会	会 報	発行 上川管内校長会 【事務局】旭川市6条通4丁目 上川教育研修センター3F TEL(0166)25-1350 FAX(0166)29-2115
		会長 紺野元樹 編集 広報部 令和3年度 第2号 (155号)



何のために今、 そのポジションにいるのか

上川管内校長会副会長 鈴木 豊
(名寄市立名寄小学校)

年度当初、名寄市教育研究所の全所員へ、『目の前の子どもたちのために』という題名でメッセージを送付しました。「何のために今のポジションにいるのか。今、自分にしかできないことをしていないのであれば、そのポジションにいる意味はない。」という書き出しです。その後、管理職には、自戒の念を込めて、次のようにメッセージを続けました。

「私たち管理職は、常にこのことを肝に銘じて、職務を遂行する必要があるのではないのでしょうか。『学校力は校長(教頭)のかいた汗(本気度)の量と比例する』、私はそう考えています。未来を担う子どもたちの成長のために組織力の強化はもちろんのこと、個々の教職員の人材育成は私たちの責務です。その意味でも、一生懸命努力を重ねている本研究所の所員へ適時的確な指導・助言を行うことの重要性をお互いに自覚し、本研究所の発展とともに、目の前の子どもたち一人一人を確実に成長させるために学び続けましょう。」

今年度から上川管内校長会副会長を拝命した私にとって、まさにそのことを考える時。本会

の活動の重点は次のように明記されています。

- 1 「愛情」と「信頼」に基づき、創意に富む信頼される学校経営の充実に努める。
 - 2 校長自ら「研鑽」に励むとともに、教職員の一層の資質・能力の向上に努める。
 - 3 組織活動の充実と確かな情報共有を図り、会員の「結束」を強化するとともに、教職員の処遇改善に努める。
 - 4 上川教育局・地教委、道小・道中、教育関係機関・団体と連携し、教育課題の解決及び北海道教育をリードしていくことに努める。
- 端的に言うならば、「校長としての学びの継続及び校長会としての組織力の強化を図り、学校の教育力を確実に高めること」がゴールであると私は考えます。感染症拡大の影響により、様々な事業実施が困難な中、ICT等の有効活用を図り、コロナ禍だからできないという発想ではなく、コロナ禍だからこそ前年度踏襲を打破するチャンスが到来したと私は考えるようにしています。今年度も会員の皆様の御協力をいただき、どう工夫したら、何ができるかを考えると同時に、「愛情と信頼」「研鑽と結束」の合言葉のもと、互いに情報交流を図りながら、学び続けましょう。子どもたち・教職員のために。



おすすめ書籍、2冊

上川管内校長会事務局長 南部 和 紀

(東川町立東川小学校)

昨年の会報152号に将棋プロ棋士、藤井聡太氏のことを書きました。あれから1年。その後の活躍も目覚ましく、棋聖、王位のタイトル共に防衛を果たした上に、叡王戦第5局（最終局）にも勝利し、史上最年少での三冠を達成。さらに、竜王戦の挑戦者にもなっています。まさに、飛ぶ鳥を落とす勢い。師匠の杉本八段は、藤井三冠の大活躍に、きっと目を細くしているに違いありません。

ここからは、書籍の紹介です。1冊目は、かの有名な 齋藤 孝 先生が記した『10歳のミッション キミを一生ささえる31の行動』というタイトルの書籍です。幻冬舎から、今年の7月30日に出版されました。

はじめに

(前略) 10代は、心と体の土台をつくる大事な時期です。10歳になる、あるいは10歳になったあなたに、おすすめしたい31のミッションを考えました。

もくじを見て、おもしろそうなもの、できそうなものから読んで、やってみてください。

前書きを読むと分かるように、子ども向けの書籍です。しかし、大人の私が読んでも大変参考(勉強)になりました。

「あいさつで心を開け!」「相手のいいとこ

ろを見つけてほめよ!」「予定表を作り、目の前のことに集中せよ!」「優先順位を書いて確かめよ!」「世のため人のためにできることを考えよ!」「とにかく思いきり笑うべし!」等等…。小～中学生に読んでもらいたい書籍です。

2冊目。『最新の脳研究でわかった! 自律する子の育て方』(工藤勇一・青砥瑞人 共著、SB新書) 工藤勇一氏とは、あの麴町中学の元校長、あの有名な工藤氏です。序章から引用させていただきます。

- ・学校の最上位の目的が、「子どもたちに社会で生きていく力を身につけてもらうこと」だと考えれば、教育目標は時代の変化に合わせて常にアップデートされていくのが正しい姿です。
- ・子どもに手をかけすぎる大人たち
- ・学校をおかしくしている手段の目的化
- ・「心理的安全性」と「メタ認知能力」

紙幅が尽きました。興味を抱かれた方は、是非御一読を。



新教育長のご紹介



下川町教育委員会教育長

かわしままさよし
川島政吉

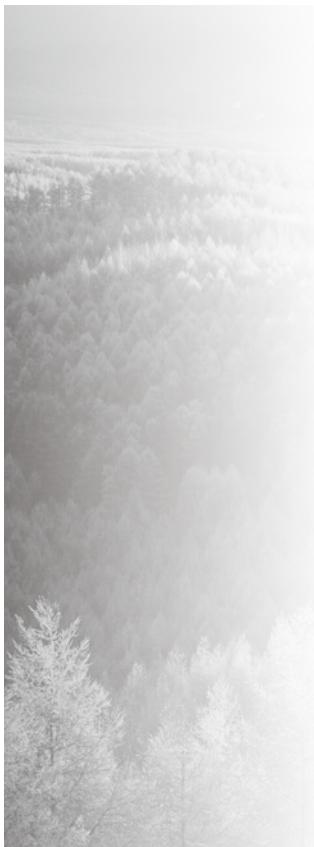
- ・生年月日 昭和33年 7月24日生
- ・出身地 紋別市
- ・就任年月日 令和 3年 7月 1日
- ・前 歴
 - 昭和57年 4月 1日 天塩町立天塩中学校教諭
 - 平成 2年 4月 1日 留萌市立北光中学校教諭
 - 平成 7年 4月 1日 北海道理科教育センター研究員
 - 平成10年 4月 1日 北海道教育庁十勝教育局義務教育指導班指導主事
 - 平成13年 4月 1日 北海道教育庁上川教育局義務教育指導班指導主事
 - 平成16年 4月 1日 北海道教育庁胆振教育局義務教育指導班主査
 - 平成19年 4月 1日 北海道教育庁根室教育局生涯学習課長
 - 平成22年 4月 1日 北海道教育庁上川教育局教育支援課長
 - 平成25年 4月 1日 旭川市立大有小学校校長
 - 平成28年 4月 1日 旭川市立知新小学校校長
 - 平成31年 4月 1日 北海道教育庁上川教育局主幹
- ・信 条 「人を以て鑑となせ」



占冠村教育委員会教育長

ただあつし
多田淳史

- ・生年月日 昭和41年 7月19日生
- ・出身地 空知郡南富良野町
- ・就任年月日 令和 3年10月 1日
- ・前 歴
 - 平成 2年 5月 1日 占冠村役場建設課入職
 - 平成 8年 4月 1日 トマム支所主査
 - 平成12年 2月 1日 住民課戸籍係長
 - 平成17年 4月 1日 総務課庶務企画グループ庶務担当係長
 - 平成22年 4月 1日 トマム・占冠診療所主幹
 - 平成26年 4月 1日 トマム支所長
 - 平成28年 4月 1日 総務課長
 - 令和 3年 4月 1日 教育委員会 教育次長
- ・信 条 「七転八起」



会員の声

オホーツクに持ち帰りたい大切なもの

美深町立美深中学校 松原 敏美

面談にて、「人事交流について、どう思いますか?」「はい、他の管内で勤務することは今後の学校経営にとって役立つことだと考えます。」「そうではなく、先生は人事交流を希望しますか?」(はいか、イエスカ、よろこんでしか…)「は、はい。よ、よろこんで…」というわけで令和2年度、興部中学校より現任教に赴任いたしました。

美深中学校は、教職員構成のバランスがよく他管内から転入した教員が多い学校です。上川管内及び各管内での経験と実績が集まっています。この個々の資質や実践力を組織力に結びつけ、学校力を高めていくことが校長の責務だと思います。

コロナ禍の中、他市町村の先生方と交流することができていないことが残念ですが、積極的に活動し、上川管内の高い教育力を習得していきます。今後も上川管内校長会の御指導を賜りながら、宝物をいっぱい持ち帰ろうと考えています。

サフォークランド士別より

士別市立士別小学校 指川 文徳

天塩の流れとともに人と大地が躍動する健やかなまち、士別。農業とめん羊、そして合宿の里としてもその名を馳せており、今夏は2020東京五輪に出場するドイツナショナルチーム(マラソン・競歩)が合宿を行いました。新型コロナウイルス感染症対策のため、児童・生徒が選手たちと直接交流することはできませんでしたが、給食でドイツメニューが提供され、札幌での競技を前に各校内で盛り上がりを見せていました。

さて、全国的に少子高齢化・過疎化が進行する中、本市もここ10年間で人口はおよそ4000人減り、市内の小・中学校も計7校が閉校となりました。また、児童・生徒数の減少に伴い1校当たりの教職員も減少しているのが現実ですが、チーム学校はもとより、チーム士別市(小学校6校・中学校4校)として、地域・保護者の皆様や教育委員会と連携協働し、よりよい教育活動を推進したいと考えています。

帰幌

幌加内町立幌加内中学校 小嶋 高徳

平成30年度に、教頭として勤務していた幌加内中に今年度、赴任しました。教頭のときには気付かなかった重い責任感に身の引き締まる思いです。当時、幌加内は記録的豪雪の翌年で、突然のブラックアウトもありましたが、その時は平成28年に直面した南富良野の被害から学んだ危機管理が支えになりました。

さて、今年、中学校では、北大雨竜研究林での理科野外授業など、地域に根差した開かれた教育を、感染症対策を十分に図る形で実施しています。一方、道内の感染状況により学校間交流は厳しい情勢ですが、町内リモート会議やリモート研修の活用を始めました。今後も感染防止と両立を図り、小回りの利く、町や学校の規模の利点を生かし、町内各校と連携しながら学校教育を推進します。

名寄市内の全ての学校で 取り組む働き方改革

名寄市立風連中学校 大野 昌広

「教員のこれまでの働き方を見直し、自らの授業を磨くとともに日々の生活の質や教職人生を豊かにすることで、自らの人間性や創造性を高め、子どもたちに対して効果的な教育活動を行うことができるようになること」(学校における働き方改革の目的~北海道アクション・プランより)

今年度、本市研究組織である「名寄市教育改善プロジェクト委員会」は、市内11校の管理職、スクーラー等で組織され、今日的課題である①働き方改革、②人材育成、③ICT活用の3グループに分かれ精力的に活動を行っています。私の所属する働き方改革グループは、「Road」の活用や上川教育局の御指導のもと、各校コアチームを中核に市内11校が足並みを揃え上記目的を達成すべく活動しています。今後も実感を伴った働き方改革を推進するため、気持ちのよい汗を流していきたいと考えています。

教師の学びのカタチ

当麻町立宇園別小学校 加藤 信彦

コロナ禍において、研修会や会議など、リモートや動画配信での参加が広がっています。当初、授業研究がやせ細ってしまうのではと不安になりました。私たちは、実際の授業を教室で観ながら授業改善を図ってきました。さらに、授業研究の良さは授業後の研究協議にあり、教職員が学校や年齢、経験をを超えて学び合う貴重な場でもあります。今年度、本校は上川中部地区へき地複式教育研究大会の会場校でしたが、緊急事態宣言が出され、大会役員の皆様のみでの参加となりました。そのため、中部地区の会員の皆様にはDVDでの授業配信となりました。しかし、どんな形であっても、授業を公開し、観てもらうことは教師の授業力向上には大事であると感じました。最近、いくつか公開授業をリモートや動画で観ました。子どもの様子が分かりやすく撮影されており、様々な視点で繰り返し観ることもできます。コロナ禍に関わらず、どちらもいいなと思えるようになりました。

町を知ること

鷹栖町立鷹栖中学校 大場 八 仁

7月28日、今年度異動の教職員を対象に鷹栖町内視察研修会が行われました。昨年度はコロナで中止となりましたが、今年はぜひ実施したいとの教委の要望で、日程を半日に変更しての開催となりました。

「感染対策徹底のため、中止にすべき」と思っていた参加でしたが、その考えが間違っていたことを実感させる充実した半日でした。町への熱い思いを語った町長講話の他、世界のHONDAのテストコースや障害者支援施設など、普段関わりのない施設も見学でき、町の新たな発見となりました。しかし一番は、スクールバスで巡った町の広さと道路や民家でした。「こんな離れた地域から通っているんだ。この子たちにも、学校の楽しさを味わわせてあげなければ!」と、改めて強く感じました。

「先生方に町のことを知ってもらい子どもたちを好きになってもらいたくて、今日の研修を行いました。」教委担当者の言葉が今も耳に残っています。

閉校と樹海学校開校に向けて

富良野市立樹海中学校 森 田 繁

樹海中学校は昭和56年、近隣3校の統合により開校して以来、教職員・地域・保護者の方々の並々な御尽力により、輝かしい歴史と伝統を築いてまいりました。しかし、生徒数の減少等により、今年度をもって閉校することとなりました。

現在は、閉校事業協賛会を組織し、閉校式の計画や記念誌の作成を行っています。また、校内の記念物、寄贈品等についても対応を検討し、学校に残すもの、お返しするものなどを分類し、関係者との連絡をとってまいりました。今後とも、地域や保護者の皆様の御理解と御支援をいただきながら粛々と進めていきたいと考えています。樹海中学校としては閉校ですが、来年度からは、義務教育学校「樹海学校」が開校します。

開校後は、義務教育学校の特徴を生かし、特色ある教育の実践や研究を行い、管内の小中一貫教育の更なる推進に寄与できればと考えております。

「太陽と森と湖の子の育成」を目指して

南富良野町立南富良野中学校 本 田 明 路

南富良野町では、小中高連携教育推進基本計画に則り、小中高連携を推進し、5年目を迎えています。

本年度の南富良野町教育行政執行方針の中に、「子どもたちに、基礎的・基本的な知識や技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度など、社会で自立するために必要な学力を身に付けさせるこ

と」とあります。そのために、児童生徒の学力向上を目指し作成した南富良野町版学力向上モデルをもとに、家庭学習の習慣化と学び方の指導、補充学習によるきめ細かな支援の工夫等、学習環境づくりなどを進めています。さらに、学びの連続性を視点として、徹底・継続・繰り返しをキーワードに、確かな学力を保障する取組も実践しています。

南富良野町の教育理念である「太陽と森と湖の子の育成」を基軸に、行政・家庭・地域、そして、小中高が更に連携を深め、南富良野町の子どもたちのために、魅力ある教育の創造を目指していきます。

ICTを活用したある日の授業を参観して

中富良野町立旭中小学校 川 村 寿 典

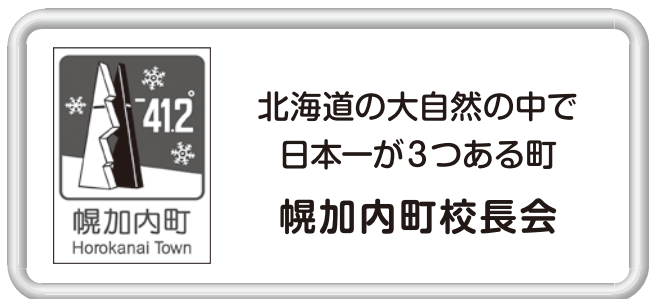
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善にICTを生かしていこうと、本校では、今年度、「ICTを効果的に活用した授業実践」を研究の中心に据え、4月から校内研究に取り組み始めました。今では、どの学年でもほとんどの教科で1台ずつ配付されたタブレットを、いろいろな場面で活用する姿が見られるようになりました。しかも、その姿は、タブレットをいとも簡単に操作して、主体的に学習課題に取り組む姿です。

ノートの自分の考えを書いたページをカメラで撮って、すぐさま友達に送信し、タブレットを使って、考えの交流を行っている。発表もタブレットを使って発表している。担任の指示がなくても、どんどん進めている。すごいなあと感じます。

一昔前と比べて、授業風景もずいぶん変わったなあと思いながら、今日も授業参観が楽しみです。



校長会の活動



1 はじめに

幌加内町は平成22年に空知から上川に編入しました。本町には日本一が3つあります。「そばの作付面積」、「日本最大の人造湖 朱鞠内湖」「日本最寒記録-41.2」です。毎年9月初旬にはそば祭りが行われ、多くの人で賑わいを見せますが、残念ながら本年も実施は見送りとなりました。

我々校長会は、教育行政基本方針「ふるさとに誇りと愛着をもち 人々と支え合い たくましく生きる 幌加内の子」の実現のため、微力を尽くしてまいります。

2 組織及び担当



村上教育長様とともに

- 会 長 吉田 典弘 (朱鞠内小学校)
- 副 会 長 米津 理臣 (幌加内小学校)
- 副 会 長 山城 誠 (幌加内高等学校)
- 事務局 長 小嶋 高德 (幌加内中学校)

3 主な活動

- (1) 定例校長会議 (月1回)
- (2) 各種研修会参加、後継者育成
- (3) 剣淵町・和寒町との合同学校経営研修会
- (4) 各種親睦行事・町行事への参加

1 はじめに

下川町は2000年ころから「持続可能な地域社会の実現」を掲げ、バイオマスを含む森林資源の活用、エネルギー自給率の向上などに取り組みました。2017年には、国際連合が提唱した持続可能な開発目標 (SDGs) に基づく「ジャパンSDGsアワード」第1回で総理大臣賞を受賞しました。また、昨年は下川町地域共育ビジョンが打ち出され、地域全体で子どもを育てる環境整備が整いつつあります。

この流れと呼応して、小・中学校では総合的な学習の時間の教育課程にSDGsの学習を配置し、環境教育に力を注いでいます。

2 組織及び担当



川島教育長様とともに

- 会 長 藤弘のぞみ (下川中学校)
- 事務局 長 井川 健 (下川小学校)
- ※会計・研修部は事務局長が兼務

3 主な活動

- (1) 学校経営研究会議
- (2) 義務教育学校経営会議
- (3) 研修活動・後継者育成研修
- (4) 親睦行事
- (5) 町行事への参加・協力





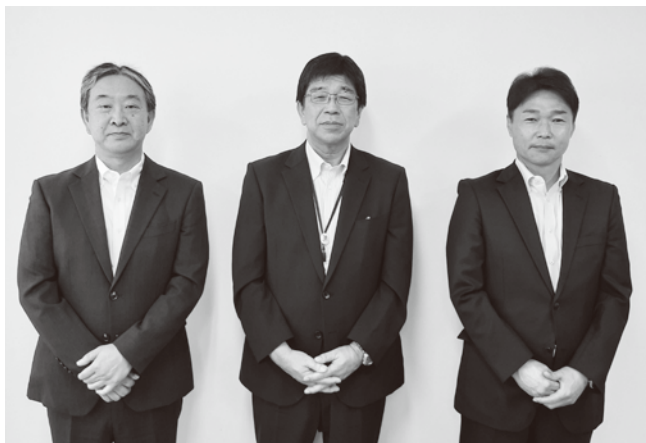
〈令和4年度義務教育学校へ〉
スキーといちごのまち
世界一大雪山がきれいに見えるまち

比布町校長会

1 はじめに

比布町は平成26年度から小中連携・一貫教育の研究を始め、その成果のもと、31年度（令和元年度）から小中一貫校としてスタートしました。そして、9年間を通じた教育活動を更に充実させるため、令和4年度、中央小学校と比布中学校を義務教育学校に移行します。開校までの期間が短いこともあり、北川教育長をはじめ、町教委の方々の強力なサポートを受け、教職員が一丸となって準備を進めています。

2 組織及び担当



北川教育長様とともに

会 長 紺野 元樹（中央小学校）
事務局長 三浦 秀也（比布中学校）

3 主な活動

- (1) 定例校長・教頭会議（月1回）
- (2) 各種研修会・研究会への参加
- (3) 鷹栖町と合同の学校経営研修会
- (4) 親睦行事・町行事への参加・協力
- (5) 義務教育学校経営部会



子どもの笑顔かがやく
恵みの大地

あいべつ

愛別町校長会



愛別町
Aibetsu Town

1 はじめに

愛別町は、「子どもの笑顔かがやく恵みの大地あいべつ」を基本テーマとして町民と行政が一体となって“ふるさと愛別”を豊かにする諸施策を積極的に展開しています。

小さな校長会ではありますが、馬場信明新教育長の御指導の下、小中連携教育の充実・発展に努めています。

2 組織及び担当



馬場教育長様とともに

会 長 蟹谷 正宏（愛別中学校）
事務局長 長谷 一哉（愛別小学校）

3 主な活動

- (1) 町校長会定例会議（町教頭会と合同）
- (2) 各種研修会・研究会への参加
- (3) 上川町・当麻町と合同の学校経営研修会
- (4) 町関係団体との連携
- (5) 小中連携教育の推進
- (6) 親睦行事・町行事への参加



～絆でつながる 田園空間 なかふらの～



心豊かな人と文化を育むまち

中富良野町校長会

1 はじめに

中富良野町の教育の基本理念「心豊かに学び、明日のふるさとをともに創る人を育む」を達成すべく、町内5名の校長が学校間連携を根底とし、それぞれの学校の特色を生かした創意に富んだ学校経営を推進しています。

今年、第6期まちづくり総合計画がスタートして、教育関係では中富良野小学校と中富良野中学校の校舎改築について検討を進めています。

2 組織及び担当

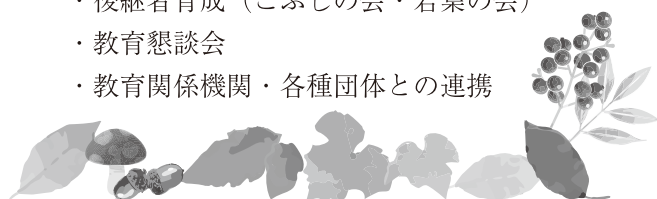


鈴木教育長様とともに

- 会 長 金光 保 (中富良野小学校)
- 副 会 長 川村 寿典 (旭中小学校)
- 事務局長 田村 圭司 (中富良野中学校)
- 研 修 部 池田 幸則 (西中小学校)
- 厚 生 部 荒川美奈子 (宇文小学校)

3 主な活動

- (1) 定例校長会議 (月1回)
- (2) 研修活動
 - ・ 学校経営研修
 - ・ 後継者育成 (こぶしの会・若葉の会)
 - ・ 教育懇談会
 - ・ 教育関係機関・各種団体との連携



へそとスキーとワインのまち

ふらの

富良野市校長会



1 はじめに

富良野市は、学校教育と社会教育、関連する児童福祉の施策を一体的に推進するため、令和3年度～令和7年度の教育の方向性を示す指針となる「第一次富良野市教育振興基本計画」を策定しました。

「自立と共生の未来を拓く 心豊かでたくましい人を育む」という基本理念のもと、「すべては子どもたちのために すべての子どもたちのために」を合言葉に、富良野らしさを大切にした教育実践に努めています。

具体的には、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善やICT教育の推進による「確かな学力」の育成、「いじめZERO運動」の展開、コミュニティ・スクールの充実、学力・体力向上に向けた研修活動の充実、外国語教育の充実、学校における働き方改革の推進等を実践項目に設定し、教育委員会と校長会が協働して具体的な評価指標 (KPI) の達成に向け、課題解決に取り組んでいます。

2 組織及び担当



近内教育長様とともに

- 会 長 山崎 省三 (東小学校)
- 副 会 長 桑原 啓成 (扇山小学校)
- 事務局長 千葉 良彦 (富良野東中学校)

3 主な活動

- (1) 教育委員会主催の校長会議 (月1回)
- (2) 研修活動
 - ・ 後継者育成 (ラベンダーの会)
 - ・ 各種研究大会への参加
- (3) 親睦行事
- (4) 地域行事への参加

